

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>
電子メール shikoku_soumu@maff.go.jp



No.1159 2016年10月号

平成28年度 四国林政連絡協議会を開催

第42回 四国林政連絡協議会が開催県である愛媛県松山市にて開催されました。

【詳細は2頁】



四国林政連絡協議会を開催

《企画調整課》



九月六日、愛媛県松山市

において、第四二回四国林

政連絡協議会を開催され、

四国各県の林務担当部局、

森林総合研究所四国支所、

同森林整備センター中国四

国整備局参加のもと、林野

庁から担当官の出席を得て

四国地区における民有林行

政と、国有林行政連携強化

等について話し合いが行わ

れました。

開会にあたり協議会長で

ある四国森林管理局長か

ら「林業の成長産業化とそ

れを通じての地方創生は、

我々、林業・林産業に携わ

る者の使命であり、国有林

としては、国有林材の安定供給、フォレストー等の人材育成、技術開発普及等の取組を通じた、民有林林政推進の支援が重要な課題である。」と挨拶がありました。

次に開催県である愛媛県

の重松農林水産部森林局長

と林野庁計画課城企画班担

当課長補佐から挨拶があり

ました。

続いて、「四国山の日賞」

選定の審査内容、林野庁か

ら森林・林業・木材産業を

巡る最近の動きについての

説明が行われました。その

後、各県が取り組んでいる

「原木の安定供給の取組」

や「担い手の確保・育成に

関する取組」等の紹介、まり、これらの説明等に関した、森林総合研究所等各機関からエリートツリーの開発やシカ生息地における再造林手法の開発といった各種研究事例や国有林との連携の状況について説明があった。

四国森林管理局就業体験

実習生（インターシップ）の受入

《総務課》



就業体験実習とは、四国として行われています。

森林管理局の行政実務に接 四国森林管理局では、今

しながら、学習意欲を喚起 年度における就業体験実習

し、高い職業意識を育成す 生の募集を行ったところ、

るとともに、国有林野事業 北海道から一名の応募があ

及び林野行政に対する理解 りました。

を深めてもらうことを目的 今回、一〇日間の日程を

協議会長（四国森林管理局長 挨拶



組み、八月一八日から八月三一日まで実習生を受け入れました。

四国局の概要、千本山保護林での施業学習、白髪山天然ヒノキ林木遺伝保護林現地実習、収穫調査業務の現地実習、地すべり防止工事箇所の見学及び治山事業

現場での測量実習、小学校で森林教室の手伝い及び、樹木学習現地実習、低コストに向けた森林整備の現地

実習及び、林業専用道事業箇所での現地実習などを実施しました。

実習生からは、「四国は四つの構造線があり、降水量が多く、台風災害などで

山腹崩壊や地すべりが起こりやすく、何箇所か復旧計画を行っていることや、高

知県がCLTプロジェクトを発信し木材利用を積極的に推進していることを知り驚きました。」などの感想がありました。

今回の就業体験を通じて森林管理の仕事を実際に経験してもらうよい機会となりました。



千本山山頂にて記念撮影

『親子ふれあい木工教室』開催 フクロウのエンピツ立て作製と 積み木教室

〈技術普及課〉



八月二五日、公募による一一組、二六名参加の「夏休み親子ふれあい木工教室」を、当局の大会議室において実施しました。

この木工教室は、夏休みの研究・学習の支援と身近な自然環境への関心や理解を深めることを目的に、オイスカ高知県推進協議会との共催で、毎年夏休み終盤に小学生と保護者を対象に開催しています。

まず、今年は「山の日」

が制定されたことから、木や山に興味を持ち、親子でもらいたいという思いで、パワーポイントを使っ

て、山で出会える木や生き物の写真を見てもらい、針葉樹や広葉樹の特徴や、葉の形の違い、森林の働きについて説明しました。

続いて、森林整備等で発生した広葉樹の枝や竹などの端材を使って、『フクロウのエンピツ立て』を製作しました。

木工製作中



比較的短時間でできる作品とあって、子どもたちは丁寧に色を塗り、フクロウやエンピツ立ての竹に模様を描いたり、親子で相談しながらゆつくりと作品を作り上げました。

その後は、オイスカスタッフと海外研修生達による積み木教室を楽しみまし

た。

ヒノキの間伐材で作られた積み木に、温もりを感じながら、保護者も交えて、上へ上へと高く積み上げたり、横に並べたり、また、途中で崩れて残念がったり、色々な子供たちの表情をみることができました。また、紙芝居でどのようにして積み木が作られたかなど、森林や木についての学習をしました。

親子で一つのものを作り上げることによって、親子のつながりをより強めることができたのではないかと考えています。

完成作品（講評）



積み木教室



九月二二日、大豊町内の上名山国有林（分収造林地）で実施された森林林業振興会と高知大学による「無人航空機（ドローン）の飛行実地試験」に参加しました。

この実地試験は、既設のシカ防護ネットの状況・状態撮影や造林地内における枯損木探索など、これからドローン活用方法や検証を目的に行われました。

当日の天候は雨で、霧も多く視界不良で、試験自

体の実施も危ぶまれましたが、奇跡的に？途中から晴れ間が見え始め、飛行試験を開始することができました。

飛行試験後には実際に撮影した映像をその場で確認し、映像は鮮明であり、シカ防護ネットの網目まで確認することができました。

また、枯損木の探索に関しても、位置や枯れ具合などの状況を確認できました。

高知大学の学生も指導を

受けながら操作を体験しましたが、驚きの声と同時に、思ったより操作が簡単などの意見が出されていました。

今後国有林における活用方法として、シカによるネット破損や土砂流出等による支柱の傾きなどの点検、上空からの活着調査、除地確認、混合歩合の確認等、さまざまなことが考えられます。

当局では全国に先駆け、全署にドローンを導入しています。今後、各現場での活用を通じた情報発信にも取り組んでいきたいと考えています。

説明の様子



ネット点検の様子



若手技術者育成の取組 「治山技術研修」について

《総務課》

近年、全国的に集中豪雨等による大規模な山地災害が発生しています。

(所)の治山担当職員を対象に治山技術研修を開催しました。

このような状況の中、四国森林管理局では、被災森林の復旧はもとより予防も視野に治山工事の、「調査」「計画」「施工」等に係る技術力の向上に取り組んでいます。今回は、若手治山技術者の基礎的技術力の向上及び育成を目的とし、九月二六日から二八日の三日間、経験年数の短い各署

現地検討



注者綱紀保持などについて座学を行いました。研修生からは、「難しい法令規制の内容も多く、まだまだ時間をかけて知識と技術力を養っていきたい。」等の意見が出されていました。

二日目は、安芸森林管理署管内の民有林直轄治山事業施行地(平鍋地区)において、平成二六年に発生した大規模崩壊地下部の溪流を二班に分かれて踏査し、技術基準に基づく溪間工の配置について現地検討を行いました。

三日目は、二日目に現地で検討した溪間工の配置を平面図、縦断面図に書き込

まず、それぞれの班ごとに検討した結果のプレゼンを行いました。

検討結果発表会



発表時には局治山課職員も出席し、発表内容についての活発な意見交換が行われました。

今回のような集合研修は初めての取組ではありましたが、研修生自ら、現地の

地形や湧水の状況などを観察し、ダム工の配置を検討するなど有意義な機会となり、今後の現場業務の一助になれたものと実感しています。

各地のたより



森林教室「森林の働き」について

〈高知中部署〉

八月二六日、南国市白木谷小学校において同小学校の白木谷子供クラブ一四名による森林教室を実施しました。

最初に紙芝居によって森

水の役割や機能を説明し、画像（マンガ）によって手入れをしない山は下草等が無くなり動物達も居なくなることや土砂崩れが発生すること等を説明し、森林が重要な役割を果たしていることを児童達に説明しました。

その後、児童達には山・水に親しんでもらうため、

実際の山を想定した「森の働き模型」により、豊かな森林と荒廃した森林で雨が降った場合にどのような違いが起こるかという実験を行いました。



「森の働き模型」実験結果の様子

まず、模型の上からジョーロで水をかけると緑豊かな山の場合、荒廃せず綺麗な水が滴り、荒廃した山では土砂崩れが発生し、泥水が滴ると子供達から綺麗、汚い等の声が上がりました。

次にペットボトルを使用しての浸透実験では、緑豊かな土壌では、ペットボトルの上から注いだ水が下に浸透し、ペットボトルの下から出てきたのに対し、そうで無い土壌では、水が浸透せずペットボトルの上から溢れる様子を見た児童達は「こっちは下から水が出んづく溜まりゆうで（こっちは下から水が出ずに溜まってるよ）」と興味津々に

丸太伐り体験

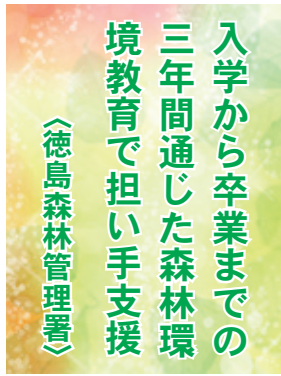


水の流れを真剣な眼差しで観察していました。

作り物のキノコやカブトムシ等を探し当てるネイチャーゲームでは、「これ？」と友達同士で指を指しながら笑い、和気藹々と次々に探し出し、答え合わせでは、歓声が沸きながら○印を付けていきました。

また、丸太伐り体験では鋸を引くのは殆どが初めてで、最初は思うように伐れませんでした。友達の声援に答えながら伐り終え、丸太を持って帰る児童もいて、大変有意義な一日でした。

最後に各児童から森林の働きについての感想と児童代表からお礼の言葉を頂き終了しました。



徳島森林管理署では、徳島県が進める「新次元林業プロジェクト」の担い手対

策と協働することの一環として、徳島県立那賀高校に設置された「森林クリエイト科」の一年生二〇名を対象に、「森林の種類」、「世界と日本の森林」、「四国四県の森林」をテーマとした講義を、九月一四日に行いました。



熱心にメモを取り聞き入る高校生

この取組は、地域の担い手育成の支援を目的としており、現在の一年生が卒業するまでの三年間を通じて、各学期毎に一回のペースで計九回、学校で学ぶ専門教科を補完する分野を中心に系統的に、森林・林業・木材産業について

学んでもらう初めての取組です。

受講した生徒からは「地元の林業について学ぶことができた」「高校生でも理解できた」「質問形式で理解できた」などの意見が出されました。

また、先生からは「生徒だけでなく、私たち教員も

勉強になりました」との意見がありました。

なお、次回二学期の講義は、一二月一日に「森林の持つ多面的な機能について」と題して行う予定です。



講義をする崎川係員

行事・イベント情報

平成 28 年 10 月 8 日 (土)
緑の募金街頭活動 高知市中央公園

平成 28 年 10 月 12 日 (水)
第 2 回 無人航空機 (ドローン) 講習会
嶺北森林管理署管内

平成 28 年 10 月 21 日 (金)
四国森林管理局・高知大学連携協定締結式
四国森林管理局

平成 28 年 10 月 22 日 (土)
「第 12 回もくもくランド 2016 秋まつり」
高知市中央公園